

華麗な転身、デビュー戦で全国大会優勝！



愛知県岡崎市で開催されたキックボクシングのAJAC K2023「ノーキャッチルール」全日本選抜決勝大会において優勝した岩永勝亮選手が、8月29日(火)に川地憲元町長を訪問しました。岩永選手は、これまでいくつもの空手の世界大会や全国大会で優勝してきましたが、今回はキックボクシングのデビュー戦で全国優勝を成し遂げました。

岩永選手は「デビュー戦でしたが、空手の経験を活かして優勝することができました。もっと経験を積んで強くなり、キックボクシングの世界でプロとして誰もが知っているスター選手になりたいです。また、妹と一緒に活躍することで、兄妹で揃って世間から注目される選手になりたいです」ともう近くに見えている夢を語りました。

活気ある安全なまちをつくるために



9月1日(金)に藤井ハウス産業株式会社(押越)より、地域振興をはじめとした町の発展を願い、600万円を寄附いただきました。

同社の藤井博美代表取締役社長は「現在は(資)藤井ハウス産業と統合し、藤井ハウス産業(株)となりましたが、藤井建具販売(株)が創立60年という節目の年を迎えました。その記念とともに、ここまで育ててくれた町への恩返しとして600万円を寄附します。地域振興や教育の充実、防災力の強化など、町のために役立ててください」と話しました。

いただいた寄附は、活気に満ち、安心して住めるまちづくりのために有効に活用させていただきます。

地域の防災力を強化する



8月27日(日)に養北小学校にて、地域住民の防災意識の高揚を図るとともに地域防災力の充実強化の実現を目的として、県、陸上自衛隊、養老警察署、町消防団、町赤十字奉仕団、町女性防火クラブの協力のもと、町と町消防本部が主催で防災訓練を実施しました。小畑地区と多芸東部地区の防災隊が参加し、防災出前講座、応急手当訓練、救出訓練・展示見学、炊き出し訓練(カレーライス)により南海トラフ地震へ備えました。

参加者は、発生が迫っている南海トラフ地震の危険性や日頃の備えについて講義で学んだほか、身近なものを利用した応急処置や、転倒物の下敷きになった要救助者の救出について実習を受けることで、自助・共助の重要性を再確認しました。

地域やファンとともに歩む



8月21日(月)に、岐阜県下42市町村がスポンサーとなっているFC岐阜(株式会社岐阜フットボールクラブ運営)の宮田博之取締役会長が来庁し、J1昇格への意気込みを語りました。宮田会長は「応援してもらっている地域の皆さまへの恩返しとして、地域に貢献したいという思いから、小学校や少年団へのサッカー教室などを行っています。また、チーム全体が若返り、活気にあふれているので、この勢いでJ2リーグに振り返り、さらにはJ1リーグでのプレーに向けて、勝ちを重ねて強いFC岐阜をお見せしたいです」と話しました。養老町もホームタウンデーへ参加するなど全力で応援しています。